

○小沼良直（研究産業協会）

## 1. 概要

（社）研究産業協会では、民間企業の研究開発動向を調査する目的で、平成17年度に自主調査としてアンケート調査を実施した。本発表は、その概要を紹介するものである。

## 2. 調査実施方法

- 調査対象：大手民間企業327社。（研究開発投資が30億円以上を抽出）  
うち、102社が回答（回答率31.1%）

〔業種別回答企業数〕

電気機器	86	輸送用機器	33	化学	40	医薬品	23	
機械	32	精密機器	10	その他製品	9	食料品	16	
繊維製品	8	情報・通信	8	電気・ガス	10	パルプ・紙	3	
石油・石炭製品	4	ゴム製品	5	ガラス・土石製品	9	鉄鋼	7	
非鉄金属	7	金属製品	6	建設	8	陸運	3	
							合計	102

- 調査時期：2006年1月6日（アンケート発送）～23日（アンケート締切）

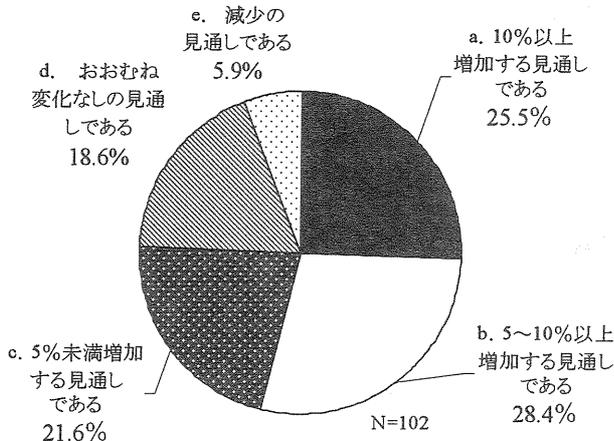
- 調査項目：以下の内容に関する調査を実施した。

分類	主な内容
①研究開発環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発費や研究開発要員の増減</li> <li>中長期的な研究開発と短期的な研究開発の比率</li> <li>基礎研究、応用研究、開発の比率</li> <li>人材育成にかかる費用、時間の増減</li> </ul>
②国際競争力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際競争における強みと弱み</li> </ul>
③新技術の創造について	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデア創造における阻害要因</li> <li>テーマ化、予算化における阻害要因</li> <li>事業化における阻害要因</li> <li>研究開発成果が事業化に結びつく確率</li> </ul>
④自前主義とアウトソーシングについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア技術の比重</li> <li>アウトソーシングする理由と弊害</li> <li>産学連携に対する見方</li> </ul>
⑤研究開発人材について	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材の確保（不足感）</li> <li>技術継承の問題</li> <li>研究開発者能力の年齢限界</li> <li>教育に対する見方</li> </ul>

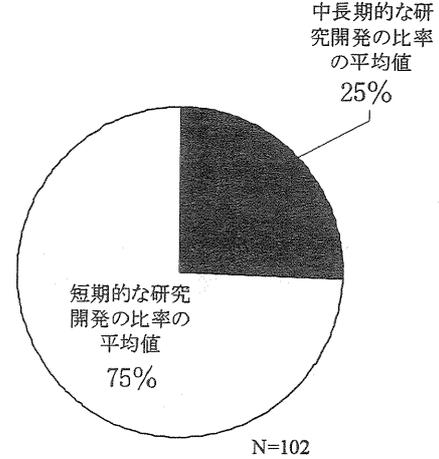
3. 調査結果の概要（一部のものを掲載）

(1) 研究開発環境について

① 5年後の研究開発費の見通し

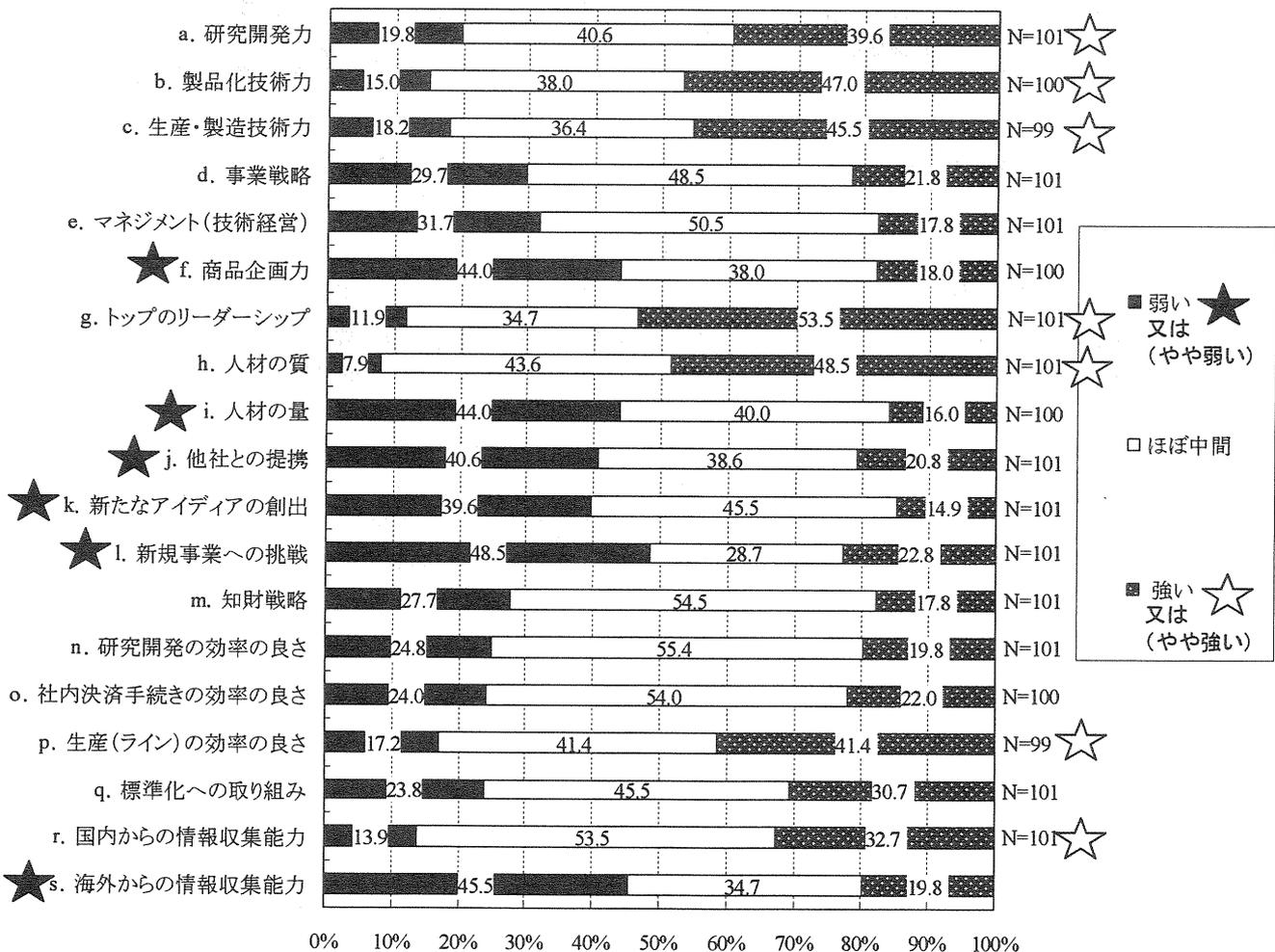


② 中長期(5~10年)と短期(1~4年)の比率



(2) 国際競争力について

質問：国際競争力について、問a～sの当てはまる所（弱い・ほぼ中間・強い）に○を付けて下さい。  
 （国際競争をしていない会社でも、海外の同業他社と比べご回答下さい。）

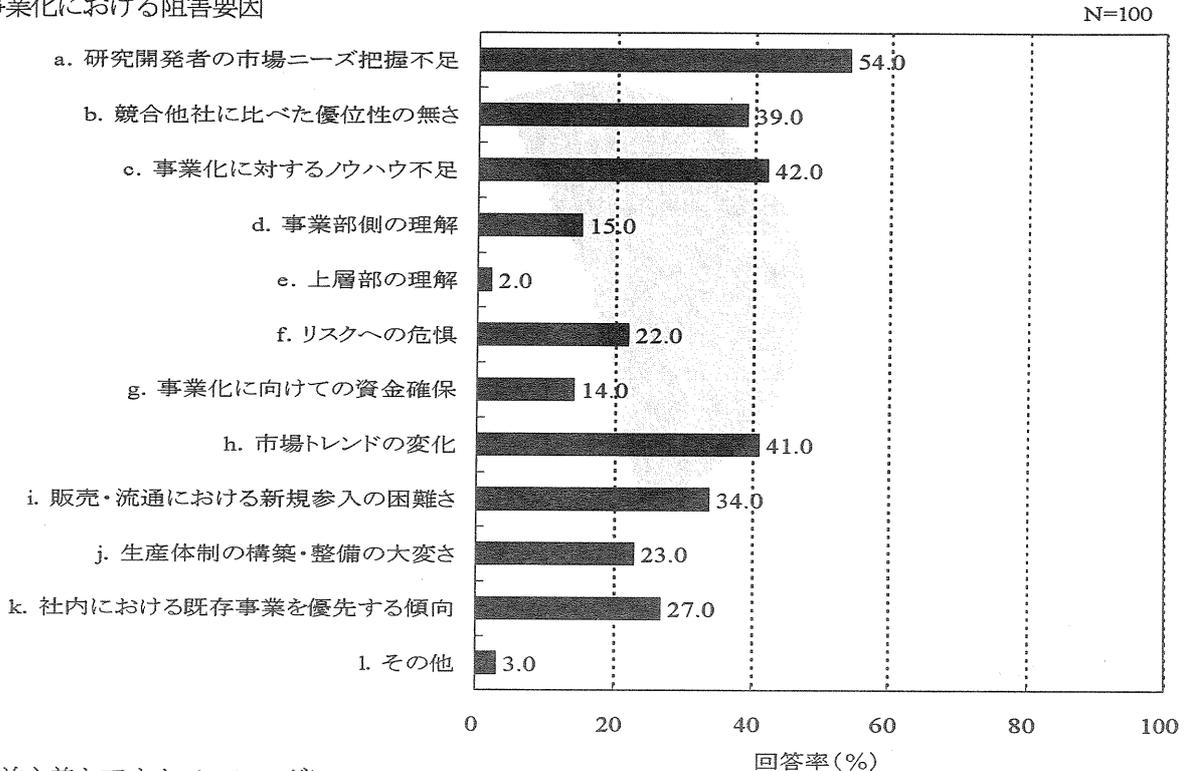


(3) 新技術の創造について

①研究開発成果が事業化に結びつく確率

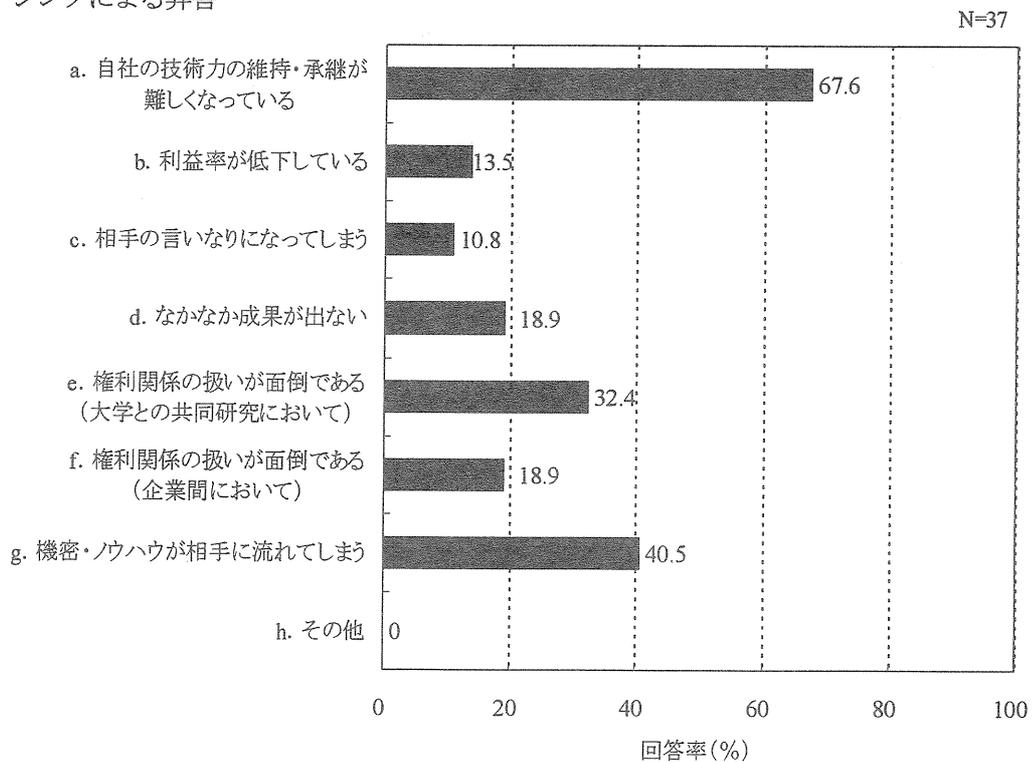
質問：貴社において研究開発成果が事業化に結びつくのは、件数ベースで研究開発の何%程度ですか。  
 →回答：平均35.2%（85社回答）

②事業化における阻害要因



(4) 自前主義とアウトソーシングについて

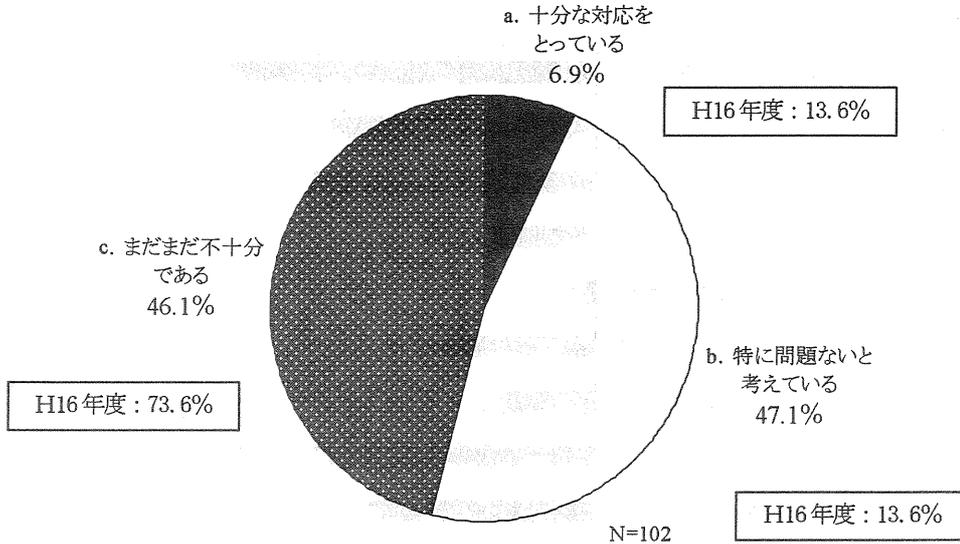
①アウトソーシングによる弊害



(5) 研究開発人材について

①技術継承の問題

質問：2007年問題など、技術承継の問題が指摘されていますが、貴社においてはそれに対する対応は十分といえますか。



4. 調査結果のまとめ

(1) 研究開発環境について

- ・費用、要員共に増加傾向
- ・人材育成についても強化する方向

(2) 国際競争力について

- ・強い点：研究開発力、製品化技術力、生産・製造技術力、リーダーシップ、人材の質、生産ラインの効率
- ・弱い点：商品企画力、人材の量、新たなアイデアの創出、新規事業への挑戦、海外からの情報収集能力、他社との連携

(3) 新技術の創造について

- ・アイデアの創出は容易ではないが、1年前より向上。
- ・研究開発が事業化に結びつく確率の平均は35.2%
- ・阻害要因としては、「市場ニーズ把握」の問題が最も多い。

(4) 自前主義とアウトソーシングについて

- ・コア技術の重要性は向上。
- ・アウトソーシングは、産学連携も含めて増加傾向。
- ・アウトソーシングの弊害は、業種の差が大きい。
- ・産学連携の内容は、「企業ニーズ」が主体。
- ・産学連携の問題点としては、「知財」、「相手のスピード」、「相手の事業化に関する意識」が多い。
- ・国内大学と海外大学の比較においては、海外大学の方が評価が高い項目が多い。

(5) 研究開発人材について

- ・創造性、戦略立案、目利きなど人材の不足感がある。
- ・技術継承の問題は残っているが、1年前よりは改善傾向。
- ・研究開発者の能力限界に対する見方は様々。
- ・現状の教育については、懸念する見方が多い。